

## 法学基礎教育研究班活動報告

加瀬 幸喜

法学基礎教育研究班の研究活動は、本年度2年目をむかえた。われわれは、新任の山口志保助教授の参加を得て、昨年におとらぬ活発な研究活動を行った。具体的には、次の通りである。

① 2月25日、26日および3月11日に開催した研究会において、小テストの項目を選定し、問題の作成および検討を行った。小テストの項目は、法学8問、憲法（基礎理論・基本的人権）12問、民法総則12問および刑法総論12問の合計44問である。各項目ごとにA4版1頁におさまるよう問題を作成した。

② 3月12日および13日に合宿を行い、1年間の問題点をあらためて検討した。

③ 5月7日、5月21日、6月25日および7月30日に研究会を開催し、前期授業で気付いた問題点を検討した。授業担当者が異口同音に指摘した最大の問題点は、勉強意欲をまったくもたない学生をどのように指導するかということであった。特に、授業に熱心な学生と勉強意欲をもたない学生とを同じクラスで教えることの困難さが指摘された。

④ 現代社会と法（演習）の前期試験を全クラス統一問題で行い、成績優秀者を掲示した。また、成績不良者について、11月6日に再試験を行った。

⑤ 9月11日および12日に合宿を行った。この合宿は、法律学科将来計画検討委員会と合同で行い、学科の将来像について大胆な検討を行った。

⑥ 12月3日に研究会を開催し、後期授業の進行、問題点、後期試験の範囲などを検討した。

⑦ 現代社会と法（演習）の後期試験についても、全クラス統一問題で行った。成績優秀者を04年4月に掲示する予定である。

⑧ 2月25日に研究会を開催し、本年度行った演習の問題点を検討した。未消化の問題があるなど、問題量が多すぎるので、小テストの項目を一層精選すべきであるなどの意見があった。

⑨ 3月16日および17日に合宿を行い、来年度の演習について総合的な検討を加えた。